

## 良食味新品種「Qなつつ」を軸とした、落花生生産体系の高度化

01023C

分野

農業一畑作物

適応地域

関東地方

〔研究グループ〕

千葉県農林総合研究センター、学校法人順天堂

順天堂大学、八街落花生商工協同組合

〔研究統括者〕

千葉県農林総合研究センター 津金 胤昭

〔研究期間〕

令和元年～令和3年(3年間)

キーワード 落花生、良食味品種「Qなつつ」、シヨ糖含有率、機械化栽培体系、ゆで落花生

## 1 研究の目的・終了時達成目標

落花生は千葉県の主要な特産作物であり、近年、県では良食味品種「Qなつつ」(品種名称「千葉P114号」)を育成した。本品種はゆで落花生や新商品への利用が期待される一方で、栽培条件により食味に差が出ること等が問題となっている。また、落花生栽培においては機械化一貫体系の確立が求められている。そこで、「Qなつつ」を軸として、目標収量(400kg/10a)を維持しつつシヨ糖含有率を高める方法等の確立、「Qなつつ」の特徴を活かした商品の作成、労働時間が40人時/10a以内の機械化栽培体系の確立を達成目標とする。

## 2 研究の主要な成果

- ① 収穫約6日前に茎葉を切除することで、「Qなつつ」の乾燥子実のシヨ糖含有率を6%以上に高められることを明らかにした。
- ② 「Qなつつ」を用いて、播種を3回に分けて連続的に収穫することにより、従来のゆで豆用品種以上の収量を確保でき、食味も従来品種以上となることから、ゆで豆としての適性が高いことを明らかにした。
- ③ 落花生の堀取機や拾い上げ収穫機を取り入れた機械栽培体系により、従来より3割少ない労働時間40人時/10a以内を実現できることを明らかにした。
- ④ 「Qなつつ」の莢実または剥き実を用いたレトルト加工品を試作し、それぞれの商品において「Qなつつ」の特徴である莢の白さ、甘みの強さを活かした商品が作成できることを明らかにした。

## 3 開発した技術・成果の実用化・普及の実績及び今後の展開

- ① 茎葉切除栽培技術やゆで豆としての栽培技術については、マニュアル等の栽培資料を作成し、成果発表会や講習会等を通じて普及を進める。
- ② 機械化栽培体系の新技術である落花生拾い上げ収穫機や簡易乾燥システムについては、今後取り組む研究課題の中でメーカーや有識者と協力して実用化に向けた試験を実施する。

## 【今後の開発・普及目標】

- ① 2年後(2023年度)は、「Qなつつ」の茎葉切除栽培技術やゆで豆としての栽培技術の普及を進める。
- ② 5年後(2026年度)は、落花生拾い上げ収穫機や簡易乾燥システムの実用化を目指す。
- ③ 最終的には、「Qなつつ」の普及面積500ha(全体の10%)を目指す。

## 4 開発した技術・成果が普及することによる波及効果及び国民生活への貢献

- ① 良食味な「Qなつつ」の栽培技術やゆで豆利用の栽培技術、機械化栽培体系が普及し、「Qなつつ」の栽培面積が500ha(全体の10%程度)となることで落花生栽培面積の減少を食い止めることができれば8億円以上の経済効果が期待できる。
- ② 開発した栽培技術や機械化栽培体系の普及により、食味が良い落花生を効率的に生産できるようになれば、今後、国民に高品質で良食味な国産落花生を安定的に供給することが期待できる。

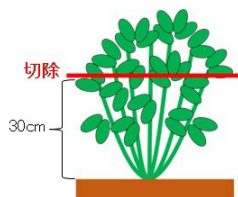
# (01023C) 良食味新品種「Qなっつ」を軸とした、落花生生産体系の高度化

## 研究終了時の達成目標

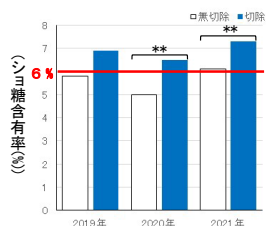
落花生新品種「Qなっつ」を軸として、シヨ糖含有率を高める栽培技術等の確立、「Qなっつ」の特徴を活かした商品の作成、労働時間が40人時/10a以内の機械化栽培体系の確立を行う。

## 研究の主要な成果

① シヨ糖含有率を高める栽培方法を確立 → 子実のシヨ糖含有率6%以上を実現

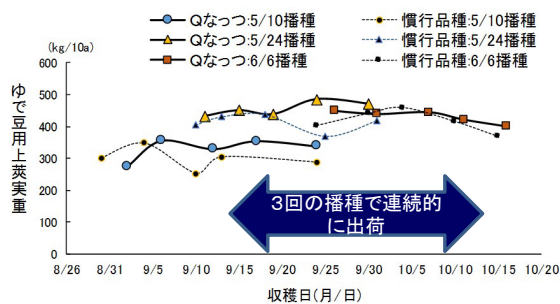


収穫6日前に地上30cmで茎葉切除



乾燥子実のシヨ糖含有率

② 「Qなっつ」のゆで豆としての適性を解明 → 従来のゆで豆用品種以上の収量・食味



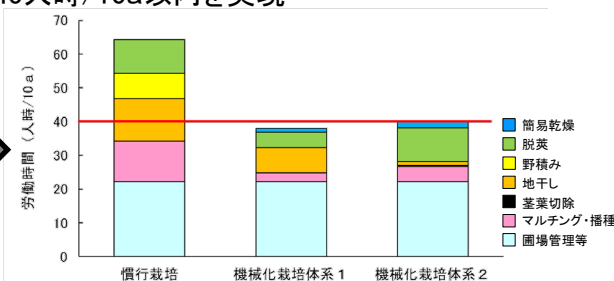
収量(製品重)が多く、  
食味が良く、  
連続的な生莢収穫可能

↓

ゆで豆用品種としての  
適性が高い

③ 機械化栽培体系で労働時間を削減 → 労働時間40人時/10a以内を実現

|          | 慣行栽培      | 機械化栽培体系1        | 機械化栽培体系2           |
|----------|-----------|-----------------|--------------------|
| 簡易乾燥     | —         | ○               | ○                  |
| 脱 莢      | 落花生脱粒機    | 落花生拾い上げ収穫機      | 落花生脱粒機             |
| 野 積 み    | ○         | —               | —                  |
| 地 干 し    | 島 立 て     | 島 立 て           | 横 倒 し              |
| 掘り取り     | 根切り機      | ラッカセイ掘取機 A-type | ラッカセイ掘取機 C II-type |
| 茎葉切除     | —         | —               | ○                  |
| マルチング・播種 | マルチャー・手播き | シーダーマルチ         | 同時施肥播種マルチ          |
| 圃場管理等    | ○         | ○               | ○                  |



④ 加工食品の試作と評価 → 「Qなっつ」の特徴(甘みが強く、莢の見た目がきれい)を活かした商品開発が可能

## 今後の展開方向

1. 開発した栽培技術について、成果発表会や講習会等を通じて普及を進める。
2. 落花生拾い上げ収穫機や簡易乾燥システムについては、今後取り組む研究課題の中で改良に取り組み、実用化を目指す。

## 実用化・普及することによる波及効果及び国民生活への貢献

高品質な「Qなっつ」の栽培技術や機械化栽培体系の普及により、新品種を活用した地域産業の活性化や高品質で良食味な国産落花生の安定的な供給への寄与が期待できる。

